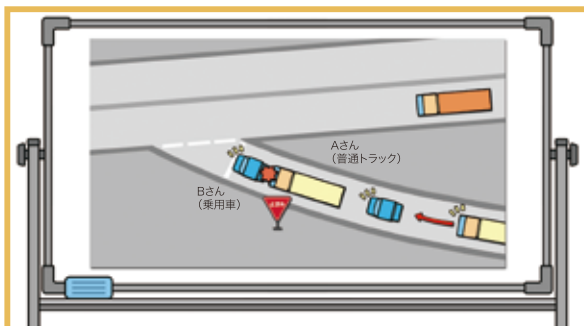


事故事例をもとに安全運転のポイントを紹介。社内での安全運転活動にお役立てください。

事故に
至るまでの
状況

Aさん(60代、大型トラック、男性)は午前11時ごろ、毎日仕事で通り慣れた、国道に合流する側道を時速20キロほどで、Bさん(50代、乗用車、女性)に追従して走行していました。すると国道を右方から通行してきた大型車が、Aさんに進路を譲る合図をして停止。Aさんは大型車の運転手にお礼の合図をして前方に目を戻したところ、Bさんが国道手前で停止しているのを直前で気づき急ブレーキをかけたが間に合わず追突してしまいました。その結果、Bさんとその同乗者の二人が傷害を負ってしまいました。

事故現場
略図



事故の原因

この事故は、Aさんが“前車の乗用車(Bさん)は止まることはないだろう”という安易な思い込みにより、前方をよく注視しなかったことが原因です。いつも混んでいる道なので、道を譲ってくれた大型車にお礼の合図をするため目をそらしたことで、「同様の場面では

自分だったら止まらずに行く」というAさんの価値観に基づいての行動だったことが考えられます。また合流の手前には一時停止標識や停止線もあり、Bさんが一時停止することはルールに沿ったもので、落ち度はありませんでした。

安全運転に向けて指導のポイント

車を運転するときは、今回の事故のケースのように「自分よがりの価値観」や「過去の悪い成功体験(不安全な運転にもかかわらず、たまたま事故にならなかった)」に基づいた判断をしないで、しっかりと周りの安全を確認することが大切です。このような原因の

場合、事故やヒヤリ・ハットがなければ、なかなか本人は不安全行動に気がつきにくいものです。安全運転の管理者の方はドラレコなどを活用し、定期的に運転を振り返りチェックしてみるのも一つの方法です。

今月の安全メモ!

- ・自分よがりの運転、思い込みはしない。つねに周囲に目を配り、安全運転!
- ・不安全な運転になっていないか、定期的にチェック!